

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	埼玉県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	川越市立川越小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	4	4	4	3	27	39
児童数	117	118	121	125	127	134	17	759	

研究の概要

1. 研究主題

「自分の力で歩いていける児童の育成」
- 指導法の工夫と改善(算数科の指導を通して) -

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

研究内容	実施学年	教科等
①習熟度別指導の推進	1年～6年	算 数
②教員の得意分野を生かした教科担任制の実施	1年～6年	別欄①参照
③指導に生きる評価の研究	1年～6年	算数を中心に
④個に応じた指導のための教材等の研究開発	1年～6年	算数を中心に

学校として、当該教科に関する研究実績があるため

別欄①教科担任制の実施学年と実施教科

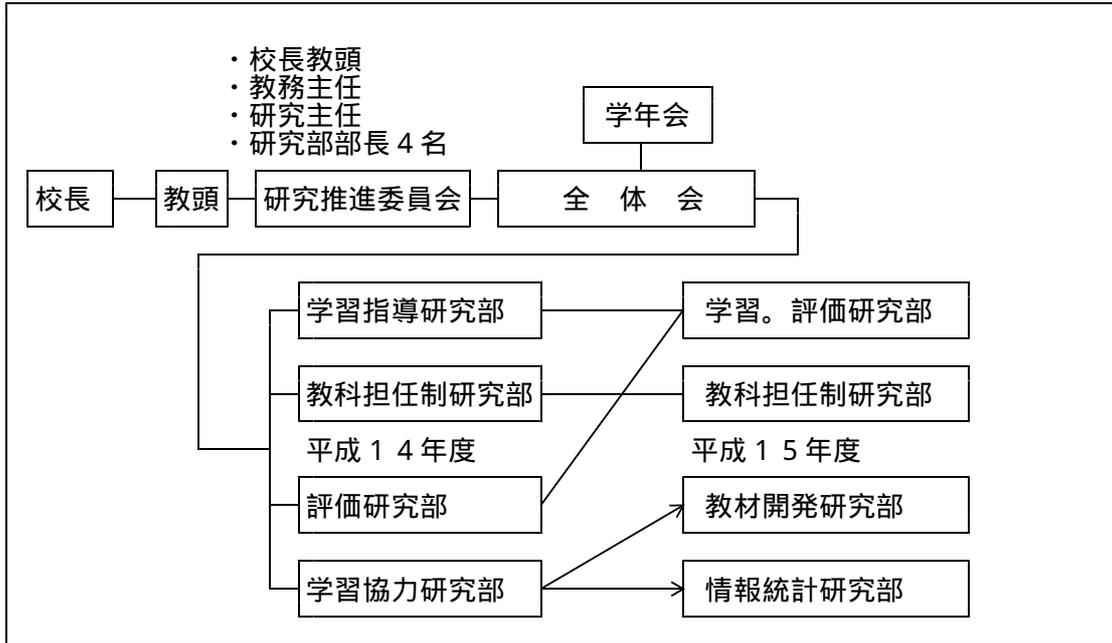
実施学年	実 施 教 科	基本教科等 (担任が指導する教科等)
1年・2年	書写・図工・音楽を1・2組、3・4組 で交換(1組担任は2組を授業)	国語・算数・生活・音楽・ 図工・体育・道徳・学活
3 年	社会・理科・音楽・図工	国語・算数・道徳・学活・ 総合的な学習の時間
4 年	社会・理科・音楽・図工・体育	国語・算数・道徳・学活・ 総合的な学習の時間
5年・6年	社会・理科・音楽・図工・家庭・体育	国語・算数・道徳・学活・ 総合的な学習の時間

算数科と同様に他教科でも学力の向上を図るため

(2) 年次ごとの計画

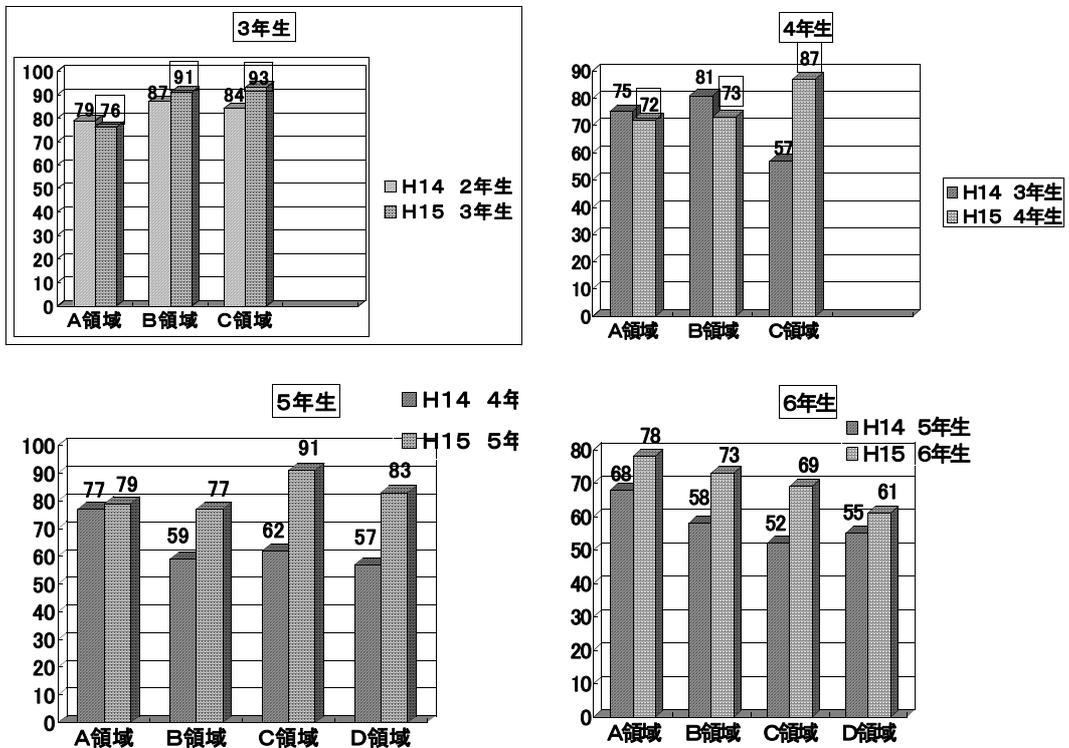
平成14年度	<p>テーマ 自分の力で歩いていける児童の育成</p> <p>仮説 確かな学力を身に付ければ自分の力で歩いていけるだろう 豊かな人間性を育めば自分の力で歩いていけるだろう</p> <p>研究内容・方法 研究体制の確立と研究の推進 ・組織作り ・共通理解 ・理論研究 ・授業実践</p>
平成15年度	<p>テーマ 「自分の力で歩いていける児童の育成」 - 指導法の工夫と改善（算数科の指導を通して） -</p> <p>研究の見通し 豊かな人間性を育み確かな学力を身に付けさせれば自分の力で歩いていけるであろう</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>内容</p> <ol style="list-style-type: none">① 算数を中心にした習熟度別指導の研究② 教員の得意分野を生かした教科担任制の実施③ 指導に生きる評価の研究④ 個に応じた指導のための教材等の研究開発 <p>方法</p> <p>◎確かな学力向上を図るため、個に応じた指導の理論研究を行うと共に、指導方法・指導体制の工夫改善による実践研究を行う。</p> <p>◎授業実践を中心に児童一人一人の実態に応じ、きめ細かな指導の実践を推進し、研究内容の4項目の深化を図る。</p>
平成16年度	<p>テーマ 「自分の力で歩いていける児童の育成」 - 指導法の工夫と改善（算数科の指導を通して） -</p> <p>研究の見通し 豊かな人間性を育み確かな学力を身に付けさせれば自分の力で歩いていけるであろう</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>内容</p> <ol style="list-style-type: none">① 算数を中心にした習熟度別指導の研究② 教員の得意分野を生かした教科担任制の実施③ 指導に生きる評価の研究④ 個に応じた指導のための教材等の研究開発 <p>方法</p> <p>◎確かな学力向上を図るため、個に応じた指導の理論研究を行うと共に、指導方法・指導体制の工夫改善による実践研究を行う。</p> <p>◎授業実践を中心に児童一人一人の実態に応じ、きめ細かな指導の実践を推進し、研究内容の4項目の深化を図る。</p>

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題
1. 研究の成果

人間算数数学学力調査における経年変化



習熟度別学習の推進により、児童一人一人をじっくりと見つめることができ次のような成果をあげられた。

- 一人一人の活動場面や指導の機会が増え、そのことが理解力につながり、学習

- 意欲も高まってきた。
- ・学級、学年の枠を超えて指導に当たれる場面もあり、指導法の改善が図られた。
- ・学年内で互いの指導を見合う機会となり、学び合う実践的な研修になった。
- ・算数嫌いが非常に少なくなり、学習に意欲的に取り組む児童が増えている。

教科担任制を行うことにより、教材研究に時間がとれるようになり次のような成果をあげられた。

- ・より深い教材研究により、授業の工夫改善ができ、基礎・基本の徹底を図ることができた。
- ・同じ内容で学年統一の指導ができるようになった。
- ・学年全体の児童の様子を、知ることができるようになった。
- ・1つの教材を研究し、改善して授業に臨み、授業の改善を図ることができた。
- ・多くの教師が児童にかかわることにより、生徒指導でも効果的な面がみられるようになった。
- ・授業とともに、教室掲示や学級経営を互いに学び合うことができた。

2. 今後の課題

- ・授業研究の成果を通常の授業における指導方法の工夫改善（他教科を含む）に生かすことが必要である。
- ・児童が意欲的に取り組める教材を開発し、主体的な学びを支援できるようにすることが必要である。
- ・学年全体で、児童一人一人をしっかりと見つめ、理解し、児童一人一人を生かす指導方法の工夫が必要である。
- ・教科担任制の工夫改善

月曜日の1時間目から他クラスへ出たり、金曜日の5時間目が他クラスであったりするので、日課表の変更や行事があるときには十分配慮が必要である。教科間の時数調整の融通がきかないためより計画的な見通しが必要である。出授業の時間に縛られ、自学級のことは後回しになり、その時点で児童に即応できないことがあるため、生徒指導体制の創意工夫が必要である。学級数変動によって専任教科が変わるため、長期的な展望がより必要である。教科担当の見直しを図り、教師の専門性、得意分野を生かした教育活動の創造していく必要がある。

豊かな心を育むための生徒指導の充実をより図っていくこと。

平成14年度に行った時間割の工夫（1C3Tや4C8T体制）を教科担任制の中に生かしていくこと。

学力等把握のための学校としての取組

- | | | |
|------------|--------------------|----------|
| 人間算数数学学力調査 | ・4月 | ・2年生～6年生 |
| | ・前年度の各領域別の定着度をみるため | |
| 教研式標準学力検査 | ・5月 | ・2年生～6年生 |
| | ・前年度の各教科別の定着度をみるため | |

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- * 研究会 平成16年11月16日（火）
- * kawagoesho@city.kawagoe.saitama.jp

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無